Day 1

APIを使ってみよう

ゴール:

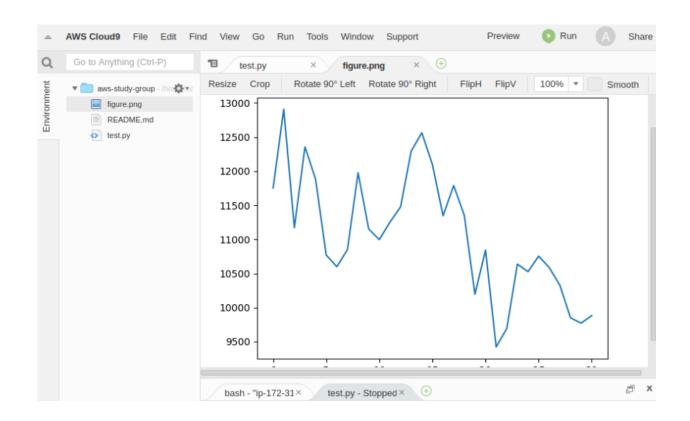
・APIを使うことができるようになる

内容:

- ・Cloud9 を使ってAWS上に開発環境を構築する(20分)
- ・Pythonとは(5分)
- ・Pythonの基本(35分)
- · APIとは(5分)
- ・APIを使ってみる(25分)

今日のゴール

- ・Pythonを使ってBitcoinの価格を取得する
- ・取得した結果から過去1か月間の値動きをグラフにしてみる



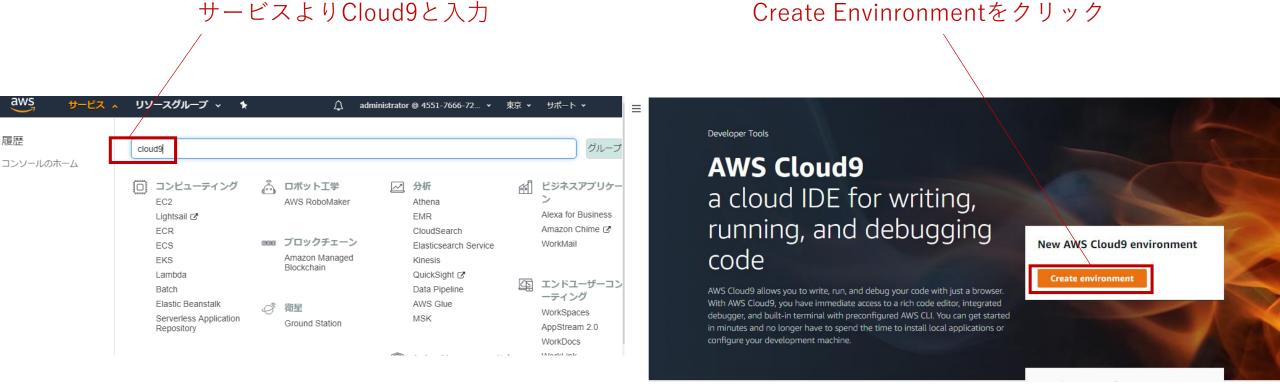
クラウドの主要なサービス



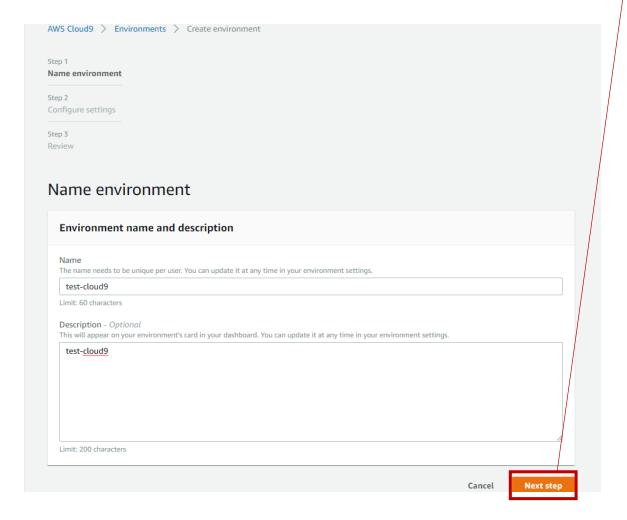


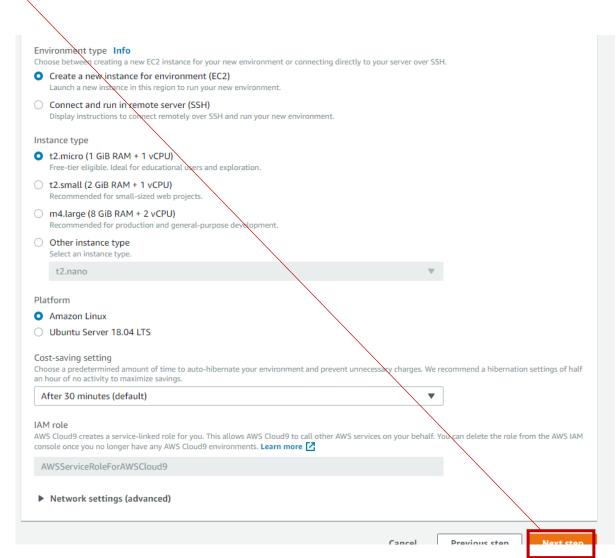


Cloud9 を使ってAWS上に開発環境を構築する

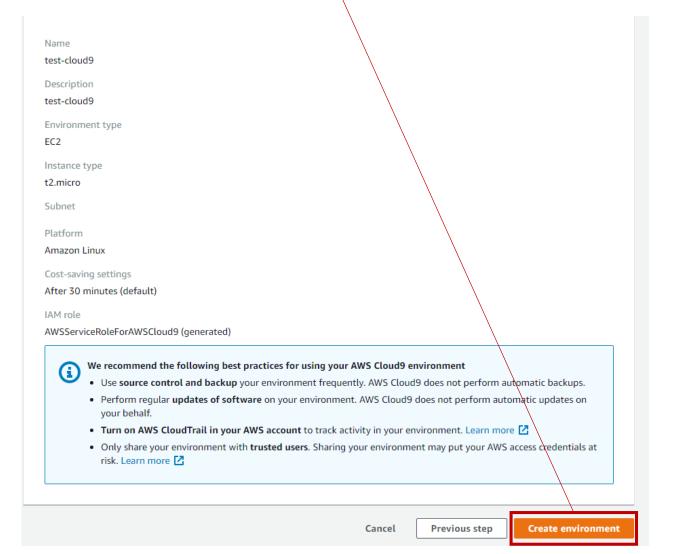


特に設定は変えない

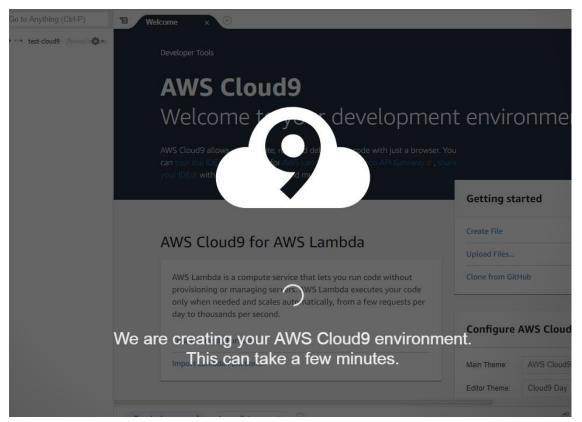




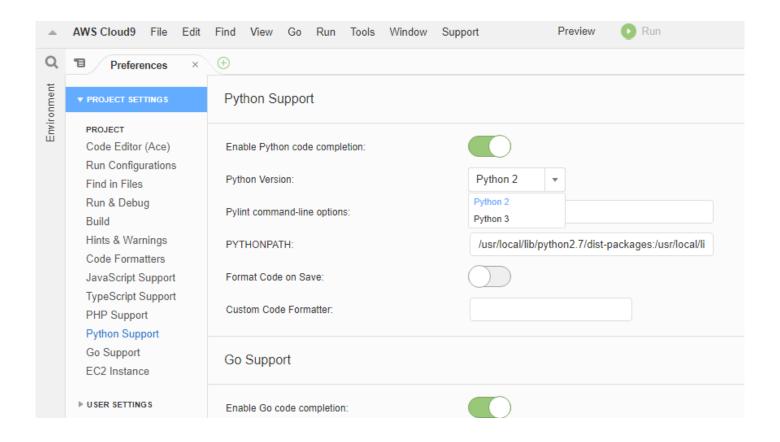
Create Environmentをクリック



開発環境の作成が始まる



[AWS Cloud9] – [Preferences] – [Python Support] の順に選択して、「Python Version」を**Python3**に変更する



Cloud9下の「bash~」と表示されている部分に以下のコマンドを順番に入力してみよう

```
python --version
python3 --version
pip --version
```

```
bash - "ip-172-31 × Immediate × +

administrator: ~/environment $ python --version
Python 2.7.16

administrator: ~/environment $ python3 --version
Python 3.6.8

administrator: ~/environment $ pip --version
pip 9.0.3 from /usr/lib/python2.7/dist-packages (python 2.7)

administrator: ~/environment $ |
```

Cloud9下の「bash~」と表示されている部分に以下のコマンドを順番に入力してみよう

```
vi ~/.bashrc
# ファイル編集後
source ~/.bashrc
```

```
x \ (±)
    vim - "ip-172-31-4 ×
                         Immediate
# .bashrc
                                                                            python27→python36に変更
export PATH=$PATH:$HOME/.local/bin:$HOME/bin
# load nvm
export NVM_DIR="$HOME/.nvm"
[ "$BASH_VERSION" ] && npm() +
    # hack: avoid slow npm sanity check in nvm
   if [ "$*" == "config get prefix" ]; then which node | sed "s/bin\/node//";
    else $(which npm) "$@"; fi
# [ -s "$NVM_DIR/nvm.sh" ] && . "$NVM_DIR/nvm.sh" # This loads nvm
rvm_silence_path_mismatch_check_flag=1 # pp_event rvm complaints that nvm is first in PATH
unset npm # end hack
# User specific aliases and functions
alias python=python27
# modifications needed only in interactive mode
if [ "$PS1" != "" ]; then
    # Set default editor for git
    git config --global core.editor /usr/bin/nano
```

以下のコマンドを入力

sudo update-alternatives --config python

```
administrator:~/environment $
administrator:~/environment $ 1s
README.md
administrator:~/environment $ sudo update-alternatives --config python

There are 2 programs which provide 'python'.

Selection Command

*+ 1 /usr/bin/python2.7
2 /usr/bin/python3.6

Enter to keep the current selection[+], or type selection number: 2
```

以下のコマンドを入力。 最後に最初と同じコマンドを入力してpythonのバージョンを確認

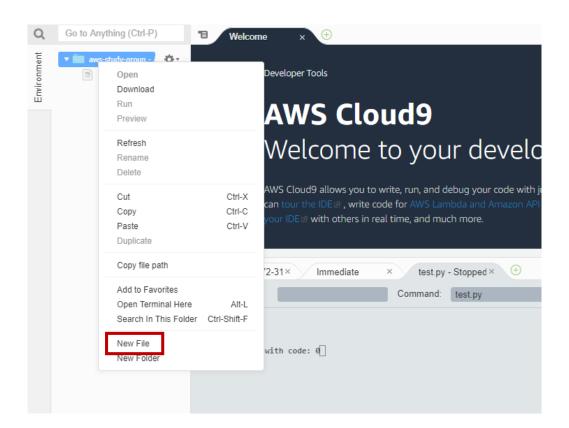
```
sudo pip install --upgrade pip
hash -r
pip install requests --user

python --version
pip --version
```

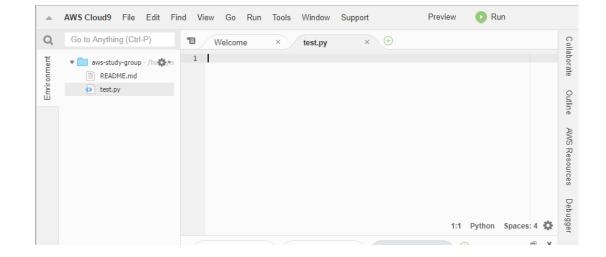
```
administrator:~/environment $ python --version
Python 3.6.8
administrator:~/environment $ pip --version
pip 19.2.1 from /usr/local/lib/python3.6/site-packages/pip (python 3.6)
administrator:~/environment $
```

早速使ってみよう

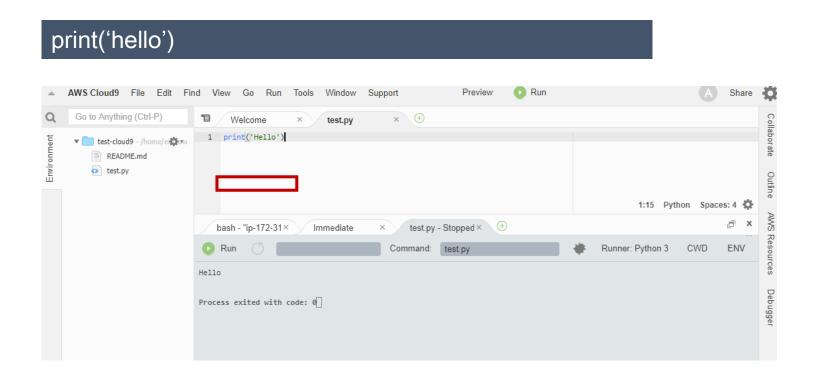
- 右クリック→「New File」を選択して ファイルを作成
 - ※ファイルの末尾は必ず「.py」



2. 1で作成したファイルをダブルクリックしてファイルを開く



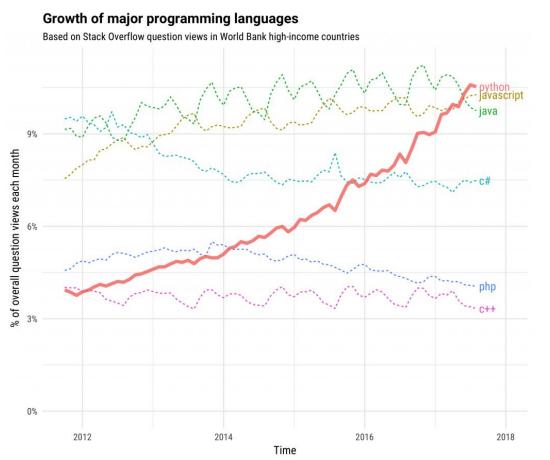
3. コードを入力後、右上の[Run]を押すとPythonのプログラムが実行される



これでPythonを使う準備は完了



- ・近年人気が上昇しているプログラミング言語
- ・ライブラリが豊富で色々なことが簡単にできる
- ・AIの作成においては一番人気の言語



Who uses Python?

COMPANIES

2797 companies use Python in their tech stacks, including Uber, Spotify, and Instagram.







asana

Asana





Dropbox

Plif

MIT



SendGrid ...









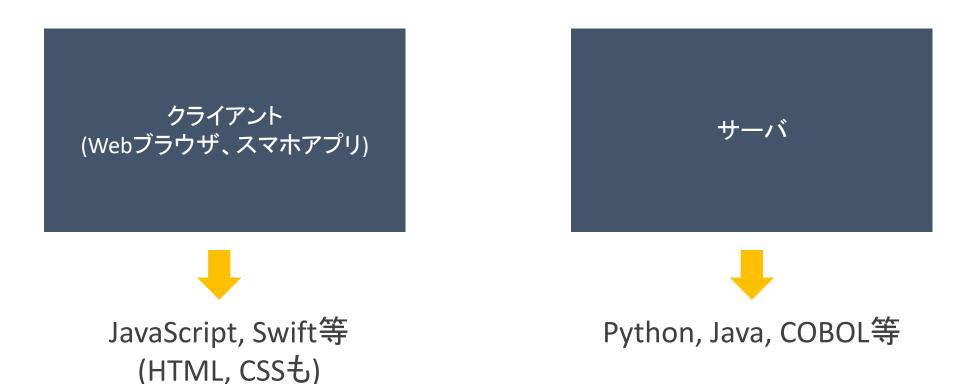






プログラミング言語の種別

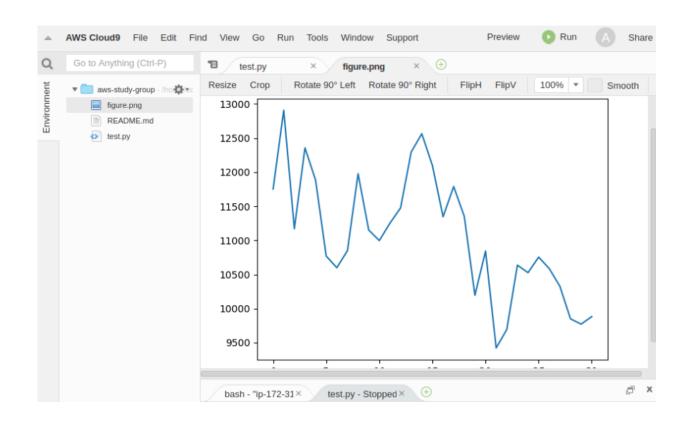
・プログラムが動く場所で以下の2つに大別できる



今日のゴールの再確認

グラフを作成するには以下の3ステップが必要

- ①APIを呼び出す
- ②①で取得したデータを処理してグラフ描画用の**データを作る**
- ③②で作成したデータを使って**グラフを作る**



APIとは?

ひとことでいうと、ある機能やデータにアクセスするための方法(どうやって使うか)を定めたもの

三菱UFJ国際投信 投信APIの例

こうやってアクセスすると



こういうデータが取得できる

```
Response
HTTP/1.1 200
Header
Content-Type: application/json
Body
    "@odata.context":
"http://developer.am.mufg.jp/api/api.rsc/$metadata#fund_information_all_latest",
    "value": [
       {···},
       \{\cdots\},
       \{\cdots\},
           nav_min_3y": "15282",
           "netassets_change_cmp_prev_day": "-0.98",
           "risk_min_full": "1.30",
           "nav_min_1y_dt": "20161109",
           "risk min 1m": "2.55",
            "percentage_change_1m": "4.71",
           "percentage_change_max_full": "123.82",
```

APIとは? 具体例1

以下の例ではAPIを通じてYoutubeのデータを利用できる

Youtube Data API

YouTube > Data API

ホーム ガイド リファレンス	サンプル サポート	
Overview アクティビティ (Activities) Captions チャンネルバナー (ChannelBanners) チャンネル (Channels) ChannelSections Comments CommentThreads ガイドカテゴリ (GuideCategories) 再生リストの項目 (PlaylistItems)		activity リソースには、特定のチャンネルまたはユーザーが、YouTube で行った操作に関する情報が格納されています。アクティビティフィードに報告される操作には、動画の評価、動画の共有、お気に入りへの動画の追加、動画へのコメントの投稿、動画のアップロードなどがあります。各 activity リソースは、操作の種類、操作に関連付けられたチャンネル、および操作に関連付けられたリソース(評価またはアップロードされた動画など)を識別します。このリソースの詳細については、対応するリソース表現とプロパティのリストを参照してください。 メソッ HTTP リクエスト 説明
再生リスト (Playlists) 検索 (Search) サブカテゴリ (Subscriptions) サムネイル (Thumbnails) VideoAbuseReportReasons 動画カテゴリ (VideoCategories) 動画 (Videos) ウォーターマーク (Watermarks) 標準クエリパラメータ (英語版) エラー		https://www.googleapis.com/youtube/v3 に対する相対 URI list GET /activities リクエスト条件に一致するチャネル アクティビティ イベントのリストを返します。たとえば、特定のチャンネルと関連付けられたイベント、ユーザーの登録チャンネルや Google+ フレンドに関連付けられたイベント、各ユーザーにカスタマイズされた YouTube トップページ フィードなどを取得できます。 insert POST /activities 特定のチャンネルに対するお知らせメッセージを投稿します(リクエストを送信するユーザーは、チャンネルの代理で行動する権限を与えられていることが必要です)。 注: activity リソースには、動画の評価やお気に入りへの動画の追加といった操作に関する情報が含まれますが、これらの activity リソースを生成するには別の API メソッドを使う必要があります。たとえば動画の評価は API の videos.rate() メソッド、お気に入りへの動画の追加はplaylistItems.insert() メソッドを使います。

APIとは?具体例2

以下の例ではAPIを通じて「画像のテキスト化」という機能を利用できる

Google Vision API

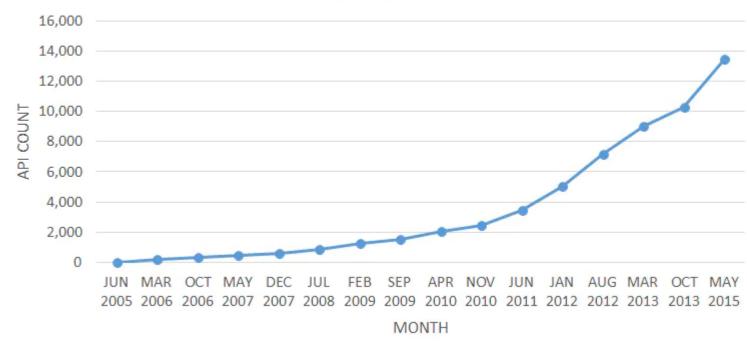
AI と機械学習プロダクト



APIとは?

- ・世の中でいわれているAPIはほとんどがWebAPI
- ・WebAPIとはWebの仕組みを使うことで自由に呼び出せるAPIのこと
- ・以下の図の通りWeb APIの数は増え続けている





まずはブラウザでAPIを使ってみよう

以下にサンプルとしてすぐに使えるAPIを用意しました

- ・Bitcoinの現在値を取得できるAPI https://www.coindesk.com/api
- ・ランダムで猫の画像のURLを取得できるAPI https://random.cat/view/1039
- ・ランダムで犬の画像のURLを取得できるAPI https://dog.ceo/
- ・架空のユーザの情報(名前、メール、顔写真等)を取得できるAPI https://randomuser.me/

ブラウザでAPIを使ってみよう

Googleを開くときもAPIを呼ぶときもやっていることは全く同じGET Request 違うのはサーバ側で返されるデータの目的

Google.co.jp

Cat API

形態

Webページ

Web API

Request

GET / HTTP/1.1 Host: www.google.co.jp GET /meow HTTP/1.1 Host:aws.random.cat

Response

HTML形式 人が見るためのデータ JSON形式 機械が処理するためのデータ

APIがあると何がうれしい?



データや機能がほしくなったときにどこからでも使うことができる

PythonでAPIを呼ぶ

以下のコードを実行すればAPIの呼び出しができます。 まずは実行してみましょう。

import requests

URL =

https://api.coindesk.com/v1/bpi/currentprice.json

response = requests.get(URL) print(response.text)

変数と値



- ・URLという変数を定義して、変数にURLの文字列を代入(Assign)している
- ・Pythonでは変数の定義時にデータの型を指定する必要がない
- ・type()でデータの型を調べられる

今日登場するデータの型

具体例

文字列 (str)

name = 'John'

数值 (int)

number = 15

辞書 (dictionary)

data = {'name': 'John'}

リスト (list)

data = [1, 2, 3, 4, 5]

関数 (Function)

response = requests.get(URL)

- ・requestsというモジュールのget()という関数(Function)を呼び出すことで APIコールを行っている
- ・関数(Function)とは何らかの機能を呼び出せるようにしたもの
- ・関数で重要な点は中身でどんなことをやっているのか知らなくても使えること

関数 (Function)

```
def add(x, y):
    return x + y

a = 5
b = 10
result = add(a, b)
print(result) # 15
```

引数(Argument) 返り値(Return Value)

… 関数に渡す値

… 関数から反ってくる値



APIで取得した値の確認

print(response.text)

- ・.textでresponseの文字列(str)にアクセスできる
- ・type()を使ってデータの型を調べてみよう

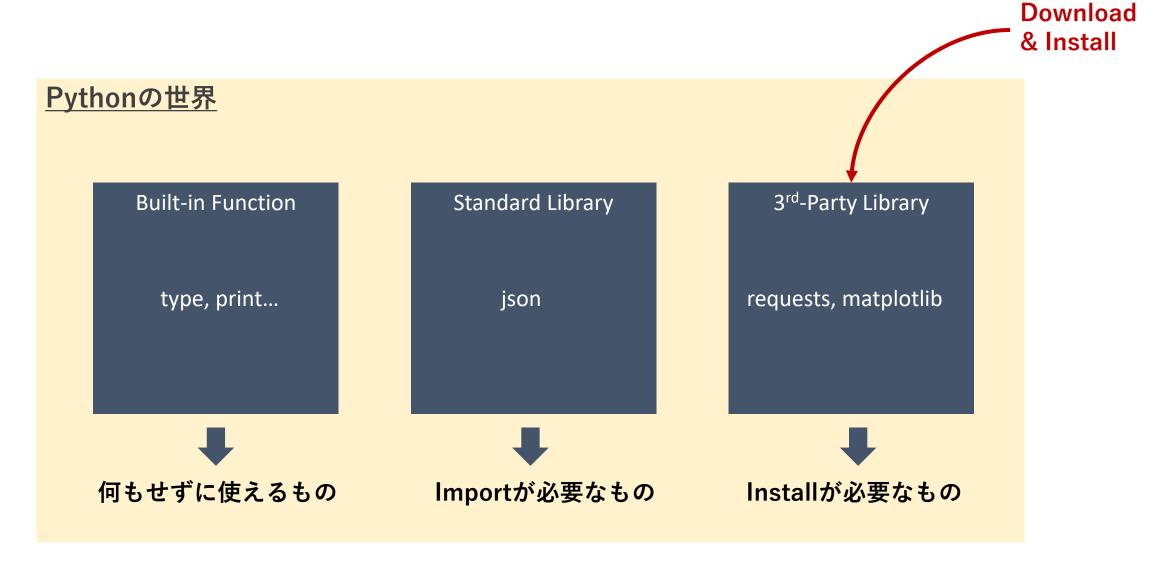
演習問題1

Bitcoinの過去1か月間の価格を取得できるAPIを呼んで、 データをCloud9上に表示してみよう。

URLは以下です。

https://api.coindesk.com/v1/bpi/historical/close.json

(参考) Pythonにおけるライブラリ



APIで取得した値の処理

Bitcoinの現在値を取得するAPI(https://api.coindesk.com/v1/bpi/currentprice.json)を例にとって、APIで取得したデータにどうアクセスするかを学んでいく。

USドルの現在価格が欲しい

APIで取得できるデータ形式

- ・APIで返される値の形式は**JSON(JavaScript Object Notation)**がデファクトスタンダード
- ・以前はXML形式が一般的だったが、今は衰退



JSONとは

データを表現するための記法(決まり事)。 JSONという共通の記法を使うことで、言語に関わらずデータのやり取りができるようになる。

JSONではキーとバリューでデータを表す。 また、数値や配列などを組み合わせることで複雑なデータを表現できる。

```
dictionary = {
    "name" | 'Sakata",
    "age" : 24,
    "balance" : [0, 100, 200, 300, 400]
}
```

今回取得したデータの形式を確認

JSONデータは構造が複雑でわかりづらかったりするので、 JSON Parserを使って構造を理解しよう(Googleで「json parser」で検索)

```
String parse
                                                JS eval
                                                ⊕ {...}
      "2019-09-10":10107.7217,
      "2019-09-11":10164.0867,
      "2019-09-12":10433.5567,
      "2019-09-13":10372.5533,
      "2019-09-14":10365.4467,
      "2019-09-15":10312.6683,
      "2019-09-16":10271.015,
      "2019-09-17":10199.905,
      "2019-09-18":10165.3267,
      "2019-09-19":10282.6567,
      "2019-09-20":10179.955,
      "2019-09-21":9989.755,
      "2019-09-22":10036.7067,
      "2019-09-23":9694.5067,
      "2019-09-24":8538.105,
      "2019-09-25":8449.9167,
      "2019-09-26":8075.9667,
      "2019-09-27":8200.2833,
      "2019-09-28":8221.3783,
      "2019-09-29":8067.2683,
      "2019-09-30":8316.8767,
      "2019-10-01":8326.58,
      "2019-10-02":8395.2183,
      "2019-10-03":8246.5417,
      "2019-10-04":8161.3483,
      "2019-10-05":8153.9767,
      "2019-10-06":7868.34,
      "2019-10-07":8217.6333,
      "2019-10-08":8191.0717,
      "2019-10-09":8596.4533,
      "2019-10-10":8590.3733
   "disclaimer": "This data was produced from
  the CoinDesk Bitcoin Price Index. BPI
  value data returned as USD.",
   "time": \Box {
      "updated": "Oct 11, 2019 00:03:00 UTC",
      "updatedISO": "2019-10-
      11T00:03:00+00:00"
```

PythonでどうやってJSONの値にアクセスするか

- ・JSONはPythonの中では**単なる文字列(str)**として表現される
- ・文字列のままでは必要な情報にアクセスできないので、**変換が必要**
- PythonではJSONをDictionaryに変換することで値へのアクセスが可能になる

JSONからDictionaryへの変換

文字列(str)をアクセス可能なデータに変換するには、 jsonというライブラリを使います。

import json

data = json.loads(response.text) type(data)

Dictionaryとは

Dictionaryとはキーとバリューでデータを表す形式。 JSONとデータの表し方がほぼ一緒。

```
dictionary = {
    "name" 'Sakata",
    "age" : 24
}
```

キーを指定することでバリューを取得できる

```
>>> dictionary['name']
Sakata
```

ネストしたDictionary

バリューにはPythonのどんなデータも使える。 そのため、以下の例のようにバリューにDictionaryを使うこともできる。

```
sample_dict= {
    "person" : {
        "name": "Sakata",
        "age" : 24
     },
     "is_valid": True
}
```

Listとは

Listとは複数の要素を保存することができるコンテナのようなデータ型。 要素を順番で持つので、時系列データを保存する場合に適している。

sample_list = ['Sakata', 'Imai']

データにアクセスするにはインデックスを使う

>>> sample_list[0]
Sakata
>>> sample_list[1]
Imai

Listに要素を追加

Listにはappend()というメソッドがあり、 これを使うと指定した要素をListの末尾に追加できます。

```
>>> sample_list = []
>>> sample_list.append(10)
>>> sample_list
[10]
>>> sample_list.append(20)
>>> sample_list
[10, 20]
```

繰り返しの実行

Pythonで繰り返し処理を実行するにはfor文かwhile文のどちらかを使います。

Listに対する繰り返しの実行

Listに対してfor文を実行すると要素の数だけループが実行されます。

```
>>> sample_list = ['Sakata', 'Imai']
>>> for data in sample_list:
>>> print(data)
'Sakata'
'Imai'
```

Dictionaryに対する繰り返しの実行

Dictionaryに対してfor文を実行するとキーの数だけループが実行されます。

```
>>> sample_dict = {
  "name": "Sakata",
  "age" : 24
>>> for data in sample_dict:
>>> print(data)
Sakata
Imai
```

Dictionaryに対する繰り返しの実行2

Dictionaryに対して.items()を使うとキーとバリューにアクセスできます。

```
>>> sample_dict = {
  "name": "Sakata",
  "age" : 24
>>> for key, value in sample_dict.items():
>>> print(key, value)
name Sakata
age Imai
```

②データの作成

演習問題2

演習問題1で取得したAPIの結果から、時系列のBitcoin価格を格納した Listを作成しよう

↓結果のイメージ

[11882.5083, 10769.4217, 10599.3267, 10850.4, 11976.6317, 11151.9183, 10996.4267, 11252.4533, 11476.4083, 12294.6567, 12563.215, 12096.6533, 11345.7717, 11789.3367, 11350.6283, 10194.21, 10842.4517, 9422.4517, 9692.7067, 10636.91, 10526.3917, 10754.29, 10586.2433, 10325.825, 9849.82, 9771.5667, 9882.1, 9844.5583, 9466.2717, 9527.7717, 9501.0317]

グラフ作成用ライブラリの使用

グラフを作成するためのライブラリにはいくつか種類がありますが、 今回は**matplotlib**というものをつかいます。 まずは以下のコマンドをコンソールに入力してライブラリをインストールします。

pip install matplotlib --user

matplotlibの使い方

折れ線グラフであれば以下のコードで簡単に作れる。 ※plt.plot()で折れ線グラフのx軸とy軸の値を指定

```
import matplotlib.pyplot as plt

x = range(5)
y = [10, 20, 50, 30, 20]

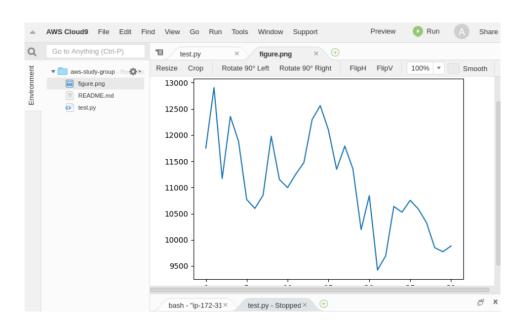
plt.plot(x, y)
plt.savefig('sample.png')
```

③グラフの作成

演習問題3(最後)

演習問題2で作成したBitcoin価格のListからグラフを作成してみよう

↓結果のイメージ



勉強会のまとめ

- ・APIがどんなもので、どんなメリットがあるか
- ・Pythonという言語の概要や基本的な文法
- ・PythonでAPIを呼んで、データを処理する方法

Pythonの活用例



参考資料

・AWSクラウド活用資料集





Compute

Sevice Name	Published Date	Title			
Amazon EC2	2019/03/05	Amazon EC2	SlideShare	PDF	Youtube
Amazon EC2	2016/04/20	Amazon EC2 - Windows	SlideShare	PDF	
Amazon EC2	2016/11/22	HPC分野でのAWS活用	SlideShare	PDF	
Amazon EC2	2017/11/10	AWSのコスト最適化/リザーブドインスタンス	SlideShare	PDF	
Amazon EC2	2019/03/06	Amazon EC2スポットインスタンス	SlideShare	PDF	Youtube
Amazon EC2 Auto Scaling	2017/03/15	Auto Scaling	SlideShare	PDF	

AWSクラウド活用資料集トップ

https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/

EC2

https://d1.awsstatic.com/webinars/jp/pdf/services/20190305_AWS-Blackbelt-EC2.pdf

Cloud9

https://d1.awsstatic.com/webinars/jp/pdf/services/20180613_AWS-BlackBelt-Introducing-AWS-Cloud9.pdf

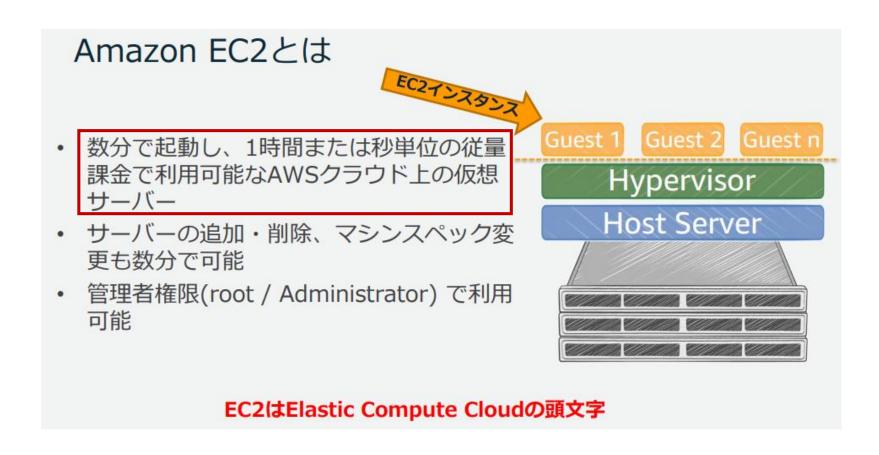
ところで、Cloud9を使うとき何が起きている?

EC2を見てみると

何かができている!



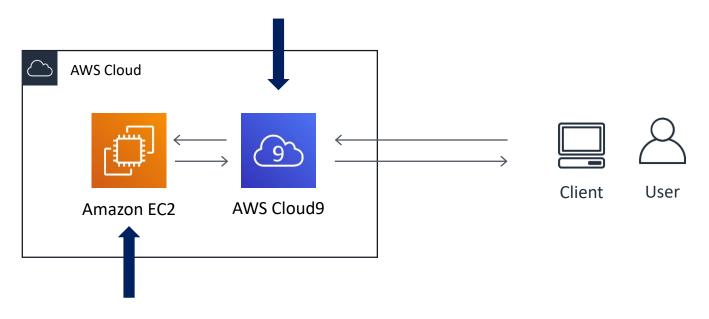
EC2とは



つまり、EC2=AWS上に立てられるサーバ

Cloud9=AWS上のサーバ(EC2)を使って開発環境を作ってくれるツール

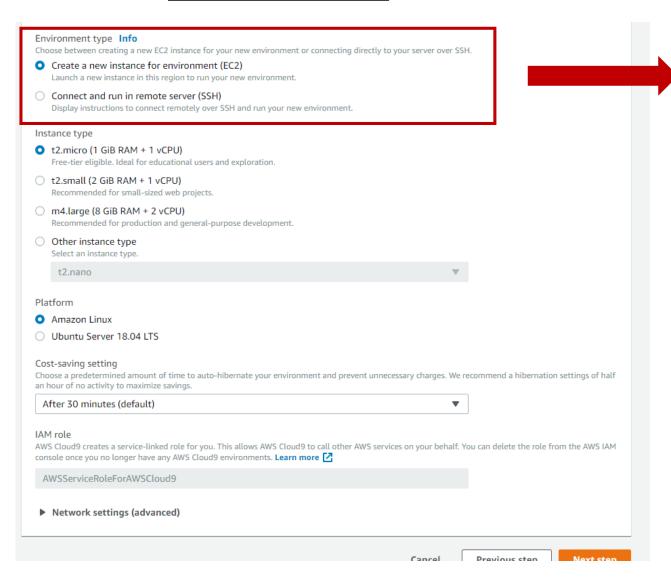
ブラウザでのアクセスを可能にしてくれる



実際のプログラムはここで動いている

実はサーバ(EC2)ができていたのは自分で選択したから

Cloud9作成時の画面



ここで選択していたのは以下の二択

- ・新しくサーバ(EC2)を立てて開発環境にする
- ・既存のサーバを開発環境にする